



「野外での虫さされに注意!!」

夏に近づき、いろいろな昆虫や鳥などがさかんに活動し始めました。チョウやガの仲間が、花々の間をヒラヒラと飛び回る様子もあちらこちらで見られますね。

しかし、中には幼虫の時代や成虫になってから毒のある毛を持っていたり、毒針を持つものもあります。時には、野外での活動中にこれらの昆虫に刺されて皮ふがはれたり、炎症を起こすこともあります。気をつけて行動しましょう。

ところで、年によって大発生する幼虫の種類が違うことがあります。2013年は、ホウオウボククチバが大量発生し、街路樹や学校に植えているホウオウボクの葉が数多く被害にあいました。今年は台湾キドクガやキオビエダシャクの幼虫をよく見かけます。



台湾キドクガの幼虫

ドクガやカレハガ、ヒトリガ、イラガの仲間の幼虫やさなぎには、さわると痛そうな毛が生えています。実際に触れると、皮ふに刺さり、皮ふ炎を起こす毛が混じっています。これらの幼虫は、葉のかげや木の幹にいたりして、知らないうちに刺されてしまうことも多いようです。その中でもイラガの幼虫は、日本で一番強い毒を持つと言われ、刺されると激しく痛み、はれもひどくなります。



イラガの幼虫

もし、野外でこのような毛虫に刺されたときには、こすらないでください。これらの幼虫の毛は、こすればこするほど折れて小さくなり、あちこちへ広がります。刺されたときには、セロハンテープなどでそっと押さえて、毛を取ってから流水で洗い流し、虫さされの軟こうなどをぬります。中には、毛を持っていても毒のない虫もありますが、油断はせず、用心していきましょう。

(文責：玉村かおり)